

	2021年度 目標/指標	2021年度 成果	評価	2022年度 目標/指標	2030年度 目標/指標	ISO26000中核課題	ESG
--	--------------	-----------	----	--------------	--------------	--------------	-----

テーマ1 地球環境を守る技術をお届けする



1.1	脱炭素・省エネ・パンデミック対応など地球を守る技術の開発・実用化・物件導入	実用化案件：1件/年 導入 開発案件：'23年度実用化に向け開発	物件導入 2件/年 室庄制御の開発・大学との共同研究継続	◎ 物件導入 2件/年 ◎ 開発案件：'23年度実用化に向け開発	物件導入 15件/'21~'30年度	労働慣行 環境	環境 E
1.2	ZEBプランナー活動の推進	'19~'21年度で3件	'19:0件 '20:1件 '21:1件	○ '22~'25年度で4件	15件/'21~'30年度	消費者課題	
1.3	ZEB物件の受注推進	中期経営計画期首受注目標の1%	1.6% > 1%	◎ 中期経営計画期首受注目標の1%	中期経営計画期首受注目標の30%	コミュニティ	

テーマ2 地域と地球のために貢献する



2.1	サプライチェーン排出量の算定と削減	サプライチェーン排出量算定に向けた計画と準備 オフィスの排出量、リサイクルによる産廃・設計物件の削減量算定	スコープ・カテゴリによる役割分担決定 オフィス 630t-CO ₂ (参考)、産廃 ▲1590t-CO ₂ (参考)、設計 ▲1570t-CO ₂ (参考)	○ サプライチェーン排出量算定の根拠と範囲を明確化し、'23年度から算定可能な状態とする	パリ協定の水準と整合したサプライチェーン削減目標達成のための活動を継続	労働慣行 環境 消費者課題 コミュニティ	環境 E
2.2	お客様のGHG排出量調査と削減提案	各支店でお客様の1事業所にチャレンジ	3支店 4物件	△ 各支店でお客様の1事業所にチャレンジ	累計50事業所に調査と提案		
2.3	省エネ技術の海外協力	ZEB技術の東南アジアへの適用と協力	ASEAN 10か国にZEB技術研修実施他	◎ ZEB技術の東南アジアへの適用と協力	海外協力の継続		
2.4	社会貢献活動および地域の災害支援活動	社会貢献 (1本部10支店×5回)、災害協定 (11カ所)	社会貢献 (1本部10支店×5回)、災害協定 (11カ所)	◎ 社会貢献 (1本部10支店×5回)、災害協定 (11カ所)	社会貢献活動および地域の災害協定を継続		

テーマ3 透明で公正な事業を推進する



3.1	コーポレートガバナンスの強化	CSR活動の再構築を計画	UNGCに署名。'22年度以降、ステークホルダーに向けて毎年定期活動報告を行う	◎ ガバナンス体制の評価・改善 コーポレートレポート発行	社会情勢に適応したガバナンス体制の構築 コーポレートレポート発行	組織統治	ガバナンス G
3.2	リスクマネジメントの実施			- リスク管理項目の抽出と管理の運用 人権デューデリジェンスの運用	取締役会によるリスクへの対応 人権デューデリジェンスの適切な運用		
3.3	コンプライアンスの推進	教育の実施 委員会による推進状況の監視・対応	関係法令・ハラスメント・ヘルプライン講習会 委員会にてコンプライアンスの推進状況監視、リスク予防、損失の極小化と再発防止に対応	◎ コンプライアンス教育の実施 ◎ 内部統制システムの運用・評価・改善	コンプライアンス教育の実施 内部統制システムの適切な運用		

テーマ4 安心できる技術とサービスをお届けする



4.1	フロントローディング (FL) 推進とBIM活用					労働慣行 環境 事業慣行 消費者課題	社会 S
4.1.1	FLによる高品質な製品の提供	各支店でモデル物件を設定しFLを実施	全支店のモデル物件設定数 計16件	◎ 各支店で新規モデル物件の設定	着工物件の50%でFL実施		
4.1.2	BIM・ICTを活用した現場施工のオフサイト化	モデル物件でプレ加工を実施	5件/8モデル物件 (8件は計画のため対象外)	○ 各支店ともモデル物件で1件以上の仕掛け BIM・ICT・オフサイト化などの情報共有	生産拠点へのオフサイト化 50%		
4.1.3	デジタルツインによる品質と安全の確認	次年度からの運用に向けて計画	3Dスキャナー：6支店 7件で説明し活用 MR (複合現実) の活用情報収集と導入計画策定	○ 各支店で3Dスキャナー活用を1件以上実施 ○ MR (複合現実) を安全活動に利用	着工物件の50%		
4.2	SANKEN Smart BA System (SSBS) 導入による建物のライフサイクルマネジメント	導入：5件、導入によるメンテ受注：1件 (メンテ受注はグループ会社と連携)	導入：8件 メンテ受注：なし	○ 導入：10件、導入によるメンテ受注：2件 (メンテ受注はグループ会社と連携)	導入累計：100件/受注累計：50件		
4.3	管・電・建 ワンストップの民間工事元請受注	中期経営計画期首受注目標の1%	5.0% > 1%	◎ 中期経営計画期首受注目標の2%	中期経営計画期首受注目標の10%		
4.4	協会会社への品質・安全教育実施	品質講習：2回/年、安全講習：2回/年	品質・安全とも2回/年実施	◎ 品質・安全：2回/年の実施と内容の改善	品質・安全講習の継続と改善		

テーマ5 働きやすく、働きがいのある職場づくりをする



5.1	健康経営の推進					人権 労働慣行	社会 S
5.1.1	ワークライフバランス (WLB) の実現	健康経営優良法人認定の取得 休暇制度の活用推進	評価項目とのギャップ分析 育休・介護休業の改定周知	△ 健康経営優良法人の申請 ◎ 男性の育休取得推進に関する改定周知	健康経営優良法人の認定継続 休暇制度などの活用推進を継続		
5.1.2	労働に関する負傷と疾病の防止	ISO45001認証取得に向けた準備 建設災害：度数率：0.35、強度率：0.010	プロジェクトチーム発足 マニュアル作成開始 建設災害：度数率：0.52、強度率：0.017	◎ マニュアル作成後、全支店で運用開始 △ 建設災害：度数率：0.35、強度率：0.010	負傷ゼロ・疾病ゼロへの継続的改善 建設災害：度数率：0.28、強度率：0.007		
5.2	ダイバーシティの推進					人権 労働慣行	ガバナンス G
5.2.1	国籍・性別・年齢などに関係なく多様な人たちが能力に応じて活躍できる職場づくり	タレントマネジメントシステム導入	タレントマネジメントシステム導入：既存人材データの一元化・見える化	◎ 一部運用開始、利用者要望との調整	多様な人材が能力に応じて活躍できる職場づくりの継続と改善		
5.2.2	女性の活躍推進	えるぼし認定1段階の準備	ギャップ分析、1段階に向けスケジュール作成	△ 労働時間などの働き方と女性管理職比率を改善	えるぼし3段階		
5.3	基幹システム開発・データ活用などによる生産性向上と社内外での信頼感・連帯感の促進	既存システムの機能向上と新システムの開発 '22年度 全基幹システム連携に向けた準備	既存システムの機能向上、情報検索・竣工物件情報・プロジェクト共有の各システム構築	◎ 情報検索・竣工物件情報の活用、プロジェクト共有の構築継続、全基幹システムと順次連携	お客様対応・協力会社との情報交換のスピードアップ、社内業務の見える化・効率化・適正化		
5.4	人を育てる						
5.4.1	ICTや技術の進歩に対応した学び直し	'23年度運用開始に向けた研修コースの検討	研修コース作成のため教育メニューを拡大	○ 社員の希望やレベルに応じた研修コースを作成 ('23年度まで継続)	学び直しの継続と改善		
5.4.2	プロフェッショナルの育成	設計施工技術・コスト把握・折衝能力などをローテーションにより向上させる	1本部9支店でローテーション実施	○ 設計施工技術・コスト把握・折衝能力などをローテーションにより向上させる	育成の継続と改善		
5.4.3	管・電・建に関する実務者と資格者の確保	建築士、施工管理技士 (管・電・建・通信)、技術士に関する受験資格者の確認と奨励	1級管：合格率<50%、1級管以外：4名	△ 1級管：合格率>70% 1級管以外：合格+採用>6名	建築士、建施工、博士+技術士 各10人/10年 電施工 20人/10年 通信施工 5人/10年		
5.4.4	階層別研修と若手のエンジニア育成教育 (全12階層)	12階層の教育実施	教育終了 (習熟度を分析し次年度に反映)	◎ 新研修施設を活用した教育プログラム構築	教育の継続と改善		